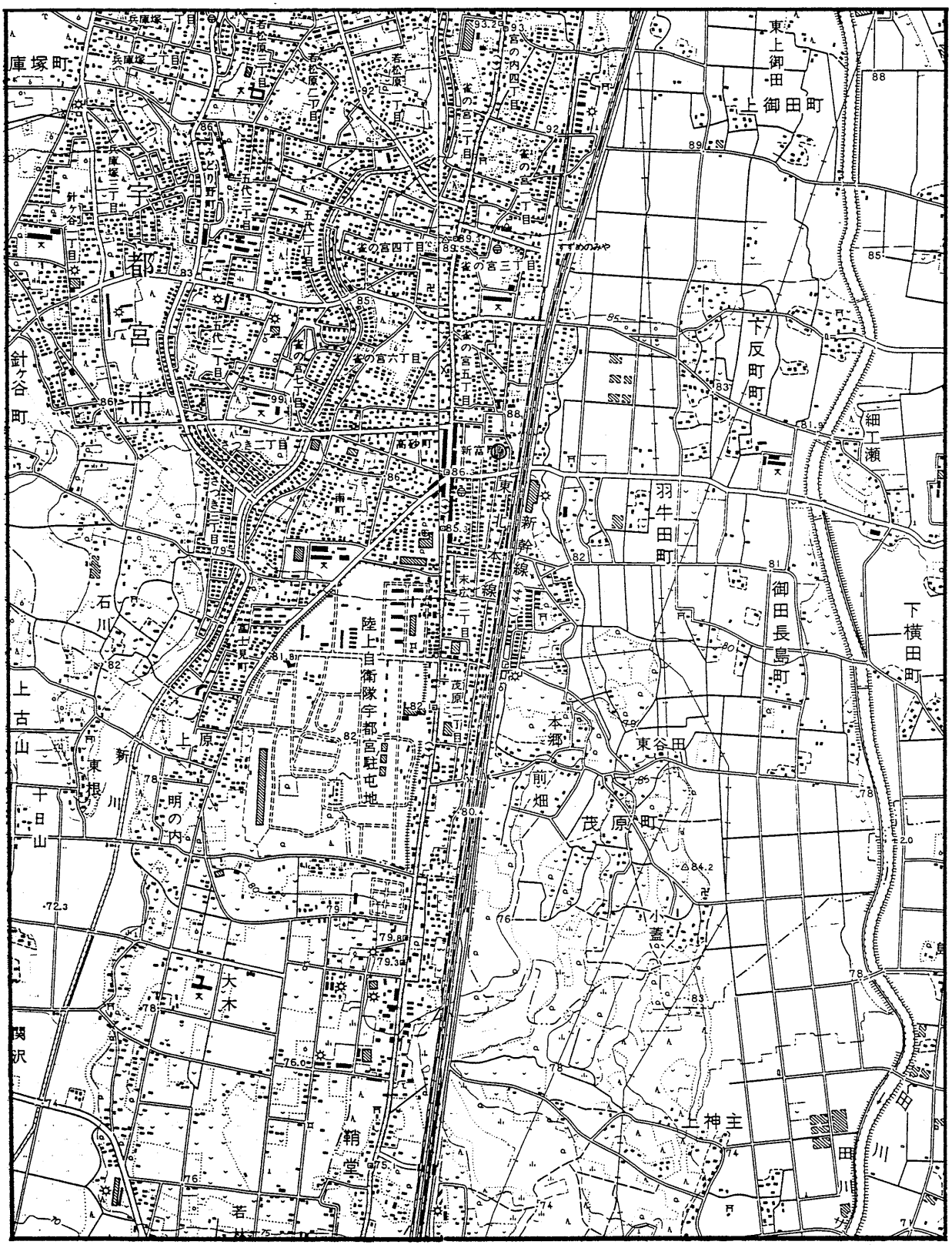
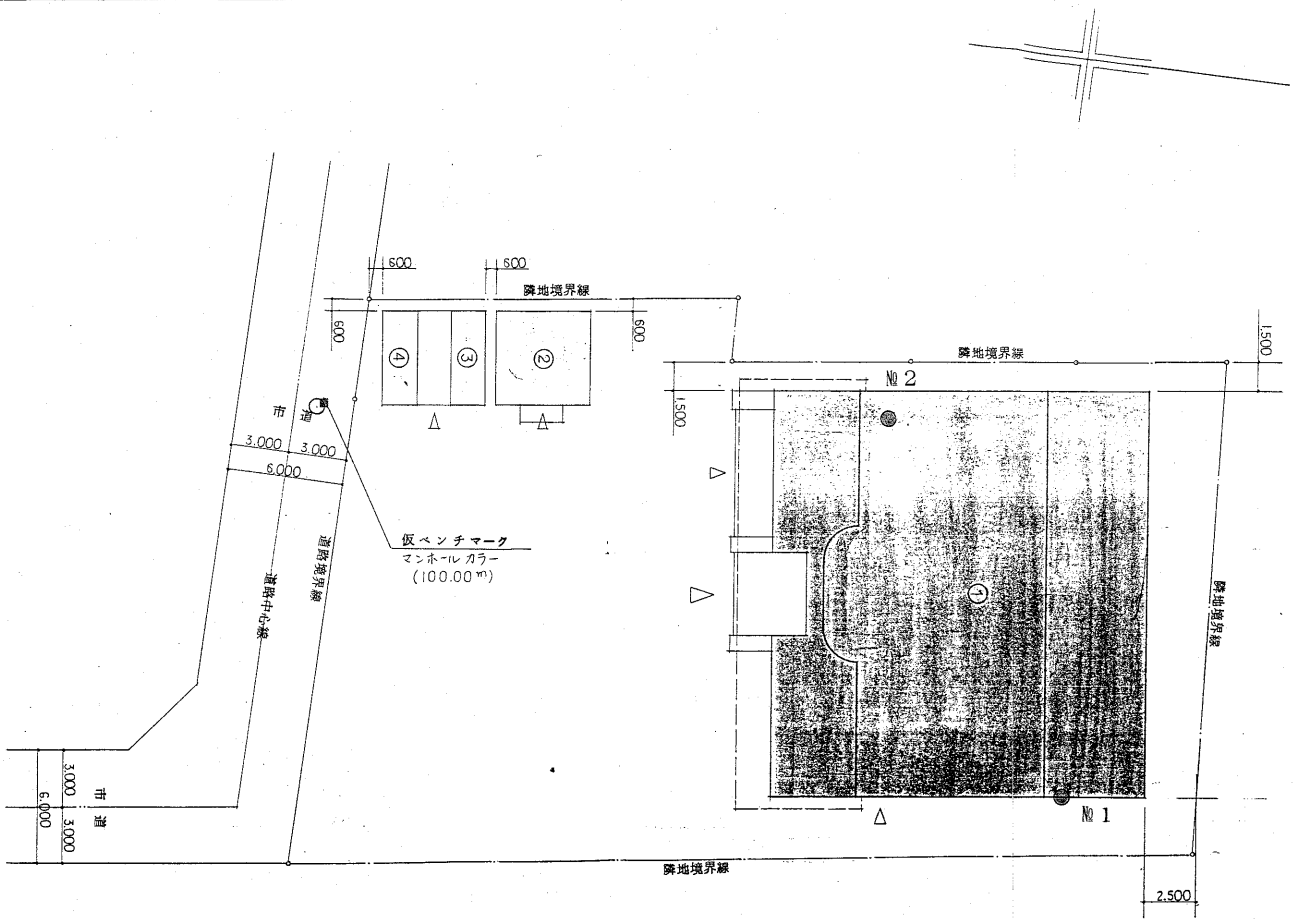
2．調査位置図



案内図（S＝1：25,000）



調査位置図	
縮尺	1:200

ボーリング柱状図

調査名　仮称 雀宮作業所新築工事 地質調査

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	宇都宮市新富町2189－4			北緯	
発注機関	有限会社半貫建築設計事務所			調査期間	平成 2年 7月 2日～ 2年 7月 3日	東経	
調査業者名	美蓉地質株式会社 電話(0286-55-2089)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	99.94m	角度	180°上 90° 0°下	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 90°鉛直
総掘進長	12.45m	使用機種	試錐機	カノ KR－100	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	ヤンマーNS－75	ポンプ	カノボーリングV6－A	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	99.34	0.60	0.60		盛土	黒褐			礫が混じる黒ボクである
1	98.14	1.20	1.80		ローム	褐		軟らかい	粘性、含水量は中位である 炭化物が混入する
2 3	96.84	1.30	3.10		鹿沼軽石	黄褐		非常に軟らかい	φ2～5mm程度の多孔質構造である 含水量がきわめて多い
4 5	94.94	1.90	5.00		ローム	褐		軟らかい	粘性、含水量は中位である 少量の軽石が混じる
6 7 8 9 10	89.64	5.30	10.30		砂礫	暗褐灰	密な～中ぐらい		φ2～70mm程度の亜円礫、亜角礫が主体である 礫間は主に粗砂で充填される φ100mm程度の玉石が点在する 5.0～5.1mは細砂である 6.0～6.5mは細砂が多量に混じる 8.1～8.3mは細砂が多い
11	88.79	0.85	11.15		砂混り粘土	茶褐		中位	10.3～10.8mは茶褐色を呈す 10.8～11.15mはφ2～5mm程度の小礫が混じり、暗褐灰色を呈す
12 13 14	87.49	1.30	12.45		砂礫	暗褐灰	密な		φ2～70mm程度の円礫、亜角礫が主体である 若干の粘土分が混じる

孔内水位(m)／測定月日：7/5 7.70

標準貫入試験

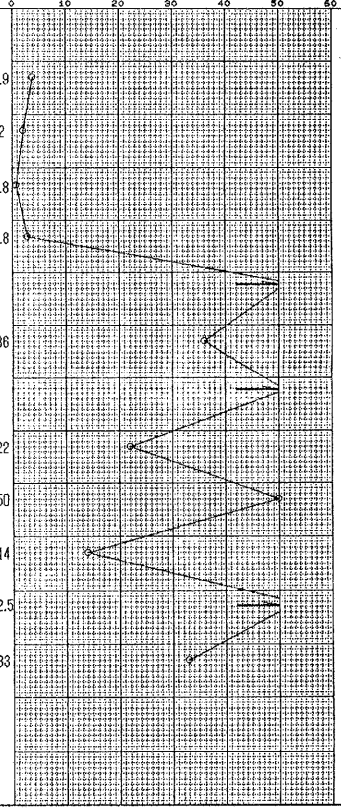
深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1/8	2/13	4/31	3.9
1.46					
2.15	1/14	1/16		2/30	2
2.45					
3.15	1/36			1/36	0.8
3.51					
4.15	1/11	1/14	1/7	3/32	2.8
4.47	34	16/5		50/15	
5.15					
5.30					
6.15	8	16	12	36/30	36
6.45					
7.15	30	20/4		50/14	
7.29					
8.15	7	6	9	22/30	22
8.45					
9.15	25	16	9	50/30	50
9.45					
10.15	8	4	2	14/30	14
10.45					
11.15	17	20	13/4	50/24	62.5
11.39					
12.15	7	11	15	33/30	33
12.45					

原位置試験：深度(m)／試験名および結果

試料採取：深度(m)／試料番号／採取方法

室内試験（　）

掘進月日：7/2　7/3



〈凡例〉

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材料	礫(G)	
	礫質土(GF)	
	砂(S)	
	砂質土(SF)	
	シルト(M)	
	粘性土(C)	
	有機質土(O)	
	火山灰質粘性土(V)	
	高有機質土(腐植土)(Pt)	

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質(S)	
	シルト質(M)	
	粘土質(C)	
	有機質(O)	
	火山灰質(V)	
	玉石混り(－B)	
	砂利、礫混り(－G)	
	砂混り(－S)	
	シルト混り(－M)	
	粘土混り(－C)	
	有機質土混り(－O)	
	火山灰混り(－V)	
	貝殻混り(－Sh)	

第3分類

区分		分類名	図模様
岩石材料	岩盤	硬岩(HR)	
		中硬岩(MR)	
		軟岩、風化岩(WR)	
	玉石(B)		
特殊土材料		浮石(軽石)(Pm)	
		シラス(Si)	
		スコリア(Sc)	
		火山灰(VA)	
		ローム(Lm)	
		黒ボク(Kb)	
		マサ(WG)	
表土(Ss)			
埋土(Fl)			
廃棄物(W)			

試料採取方法

① シンウォールサンプラーによる
Ⓓ デニソンサンプラーによる
⊖ 貫入試験器による
Ⓕ フォイルサンプラーによる
Ⓐ (　　)による

備考

No. 1 孔

ボーリング柱状図

調査名　仮称 雀宮作業所新築工事 地質調査

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	宇都宮市新富町2189-4		北緯
発注機関	有限会社半貫建築設計事務所		調査期間	平成 2年 7月 5日～ 年 月 日	東経
調査業者名	芙蓉地質株式会社 電話(0286-55-2089)	主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	99.84m	角度	180°上 90° 下0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南
総掘進長	10.45m	地盤勾配	鉛直90° 水平0°	使用機種	試錐機：カノ KR-100 / エンジン：ヤンマーNS-75 / ハンマー落下用具：コーンプーリー / ポンプ：カノボーリングV6-A

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	99.44	0.40	0.40		盛土	黒褐			φ30mm程度の礫が混じる黒ボクである
1	98.14	1.30	1.70		ローム	褐		中位	粘性、含水量は中位である 炭化物が混入する
2 3	96.84	1.30	3.00		鹿沼軽石	黄褐		軟らかい	φ2～5mm程度の多孔質構造である 含水量がきわめて多い
4	95.24	1.60	4.60		ローム	褐		軟らかい	粘性が大である 少量の軽石が混じる
5 6 7 8 9	90.04	5.20	9.80		砂礫	暗褐灰	密な		φ2～70mm程度の亜円礫、亜角礫が主体である 礫間は主に粗砂で充填される 全体的に若干の粘土分を含む 5.9～6.0mは細砂を挟む
10	89.39	0.65	10.45		砂混り粘土	暗褐灰		中位	φ2～5mm程度の亜円礫が点在する 10.25mからφ20mm程度の亜円礫が混じる
11 12 13 14									

孔内水位(m)／測定月日：7/5 7.50

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	2	2	5/30	5
1.45					
2.15	1/9	1/11	1/11	3/31	2.9
2.46					
3.15	1/32			1/32	0.9
3.47					
4.15	1/15	1/13	1/5	3/33	2.7
4.48					
5.15	16	17	17/5	50/25	60
5.40					
6.15	30	20/9		50/19	78.9
6.34					
7.15	14	15	13	42/30	42
7.45					
8.15	26	24/9		50/19	78.9
8.34					
9.15	15	12	13	40/30	40
9.45					
10.15	3	6	5	14/30	14
10.45					

原位置試験：深度(m)／試験名および結果

試料採取：深度(m)／試料番号／採取方法／室内試験(　)／掘進月日 7/5

〈凡例〉

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材料	礫(G)	
	礫質土(GF)	
	砂(S)	
	砂質土(SF)	
	シルト(M)	
	粘性土(C)	
	有機質土(O)	
	火山灰質粘性土(V)	
	高有機質土(腐植土)(Pt)	

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質(S)	
	シルト質(M)	
	粘土質(C)	
	有機質(O)	
	火山灰質(V)	
	玉石混り(-B)	
	砂利，礫混り(-G)	
	砂混り(-S)	
	シルト混り(-M)	
	粘土混り(-C)	
	有機質土混り(-O)	
	火山灰混り(-V)	
	貝殻混り(-Sh)	

第3分類

区分		分類名	図模様
岩石材料	岩盤	硬岩(HR)	
		中硬岩(MR)	
		軟岩，風化岩(WR)	
		玉石(B)	
特殊土材料		浮石(軽石)(Pm)	
		シラス(Si)	
		スコリア(Sc)	
		火山灰(VA)	
		ローム(Lm)	
		黒ボク(Kb)	
		マサ(WG)	
表土(Ss)			
埋土(Fl)			
廃棄物(W)			

試料採取方法

Ⓣ シンウォールサンプラーによる
Ⓓ デニソンサンプラーによる
⊖ 貫入試験器による
Ⓕ フォイルサンプラーによる
Ⓐ (　　)による

備考

No. 2 孔